

# 輸出事業計画

## ※申請者名：奈良県、品目：イチゴ、柿

### 1. 輸出における現状と課題

#### 【現状】

現在、奈良県のイチゴと柿の輸出は、規制の緩やかな香港が主流となっている。しかし、日本をはじめ世界各国から香港への輸出量が増加している。加えて、香港の景気動向から、高価格帯の日本産品から安価な他国産品にシフトすることも予想され、近い将来、香港の高価格帯のマーケットが飽和状態になることが懸念されている。そこで、香港に加え、新たな輸出先国を確保することは、今後の県の輸出戦略として、大変重要である。

#### 【課題】

##### ①品目：イチゴ、ターゲット国 台湾、タイ

生産：昨年度、台湾の残留農薬基準に対応した栽培方法への転換を図ったが、一部の病害虫による被害を十分に抑えることができず、途中で輸出向け生産を断念する事例が散見された。昨年度の防除暦をベースに物理的防除技術を追加導入し、一層安定感のある輸出向け防除体系を確立する必要がある。

流通：包装容器上のフィルムと果実の擦れによって、果実表面に黒ずみが発生し、品質低下を招いている。既存の包装資材等を活用した鮮度保持技術に加え、収穫適期や空港到着後の通関等の待ち時間の温度変化の影響も踏まえた品質向上への取り組みが必要。

販売：台湾においては、他県産イチゴとの競合となっており、他県産との差別化が必要。

##### ②品目：柿、ターゲット国 香港、シンガポール

生産：昨年度、タイ向け輸出ではカイガラムシ対策に多大な労力を要し、現実的な対応が難しいと判断した。加えて、生産園地登録や選果こん包施設の衛生基準の認定など多くの手続きが必要であり、新たな取組は保留。

販売：香港の景気動向、他産地との競合から、高単価での取引が期待できなくなりつつある。

### 2. 輸出事業計画の取組内容

#### ①品目：イチゴ、ターゲット国：台湾、タイ

##### 取組内容（生産体系の転換）

- ・生物農薬に加え、物理的防除法を追加した台湾市場に対応した生産モデルの安定化をめざし、現地での実証を行う。
- ・台湾向け防除暦の改良。
- ・タイの残留農薬基準値への適合状況の確認。

##### 取組内容（流通体系の転換）

- ・食味への影響を考慮しつつ、果実収穫適期を早めることが果実の黒ずみ軽減に及ぼす効果を検討。
- ・航空輸送時の保冷コンテナ利用におけるコストや効果の検討。
- ・温湿度・衝撃データロガーを用いたタイへの輸送実証。

##### 取組内容（販売）

- ・ハイエンドスーパー等の店舗において試験販売によるニーズ調査を実施し、本県産イチゴの輸出の可能性を検証。

#### ②品目：柿、ターゲット国：香港、シンガポール

##### 取組内容（生産体系の転換）

- ・シンガポール、マレーシアを想定し、国内向け同様に病害虫管理を行い、鮮度保持剤を利用した輸出を検討する。

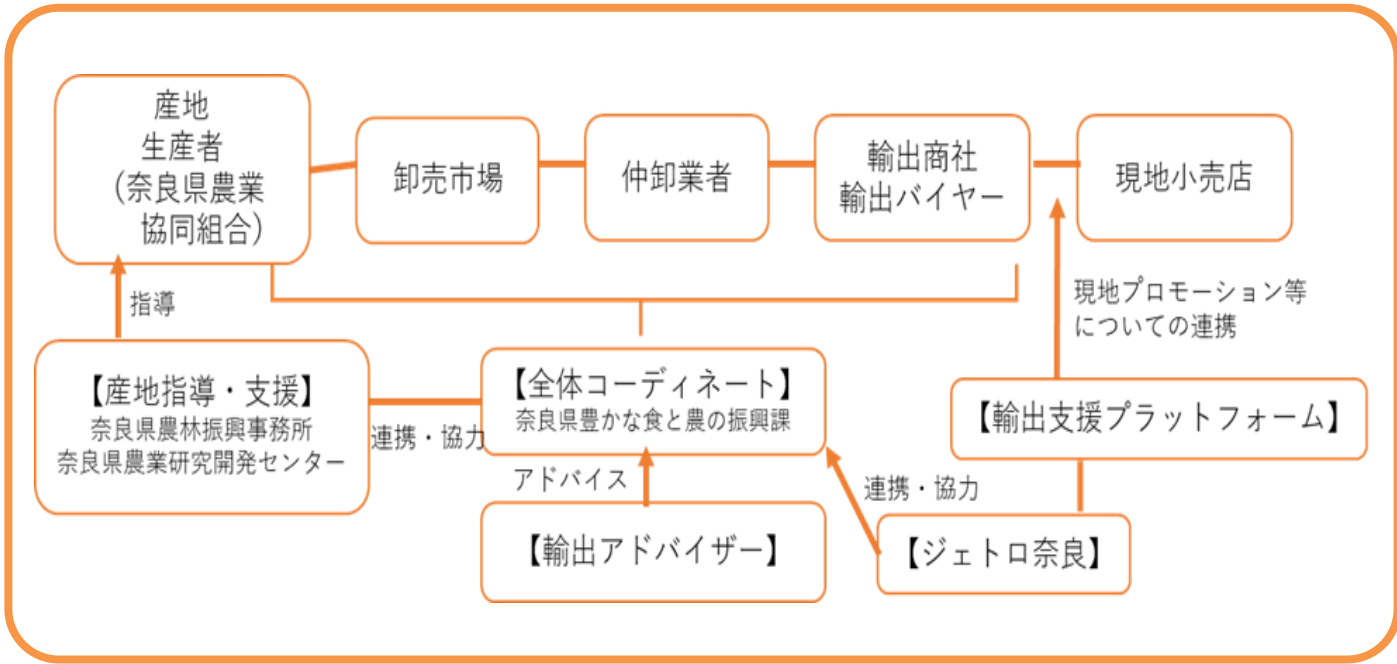
##### 取組内容（販売）

- ・従来の大玉（3L）のバラ売りだけでなく、中玉（L、M）のパック販売に力点を置いたプロモーションを実施。
- ・香港での知事によるトップセールスを行い、幅広いPRを展開する。

# 輸出事業計画

## ※申請者名：奈良県、品目：イチゴ、柿

### 3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



### 4. 輸出目標額

#### 【輸出品目：イチゴ】

		前年	現状	目標年	備考
		(令和5年度)	(令和6年度)	(令和8年度)	うち、台湾、タイ向け
大和平野地区・五條地区	輸出額(千円)	243,750	325,000	359,100	86,200
	輸出货量(kg)	65,000	65,000	79,800	19,200
	輸出先国	台湾、英国	台湾、香港、英国	台湾、香港、英国、タイ	
	生産量(kg)	2,100,000	2,100,000	2,100,000	

#### 【輸出品目：柿】

		前年	現状	目標年	備考
		(令和5年度)	(令和6年度)	(令和8年度)	うち、シンガポール向け
奈良県	輸出額(千円)	26,827	28,313	33,800	1,000
	輸出货量(kg)	63,000	65,000	78,600	2,500
	輸出先国	香港	香港	香港、シンガポール	
	取扱量(kg)	14,375,000	13,256,507	13,000,000	